


ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

		保育科 講師 荻原 千史 (おぎはら ちふみ) OGIHARA Chifumi
所属		保 育 科
学位		修士（音楽）（東京音楽大学）
資格・免許		中学校専修免許状（音楽） 高等学校専修免許状（音楽）
学歴・職歴		東京音楽大学音楽学部音楽学科器楽専攻 卒業 東京音楽大学大学院音楽研究科器楽専攻鍵盤楽器研究領域修士課程 修了 （修士（音楽））
担当科目		音楽 音楽Ⅱ 子どもと表現 子どもと表現特論 西洋音楽の世界 基礎演習 卒業演習Ⅰ・Ⅱ 社会人基礎力育成講座Ⅰ・Ⅱ
専門分野		音楽表現
現在の研究テーマ		保育者養成の実習におけるピアノ技能に関する調査
競争的資金等の研究課題		—
所属学会		日本音楽教育学会 日本ダルクローズ音楽教育学会 日本音楽療法学会
メッセージ		音楽は子どもたちが自己表現できる一つの手段です。一人ひとりの音楽の中に、言葉では表現できない子どもたちからのメッセージが隠れているかもしれません。学生の間に様々なことにチャレンジして、子どもたちの可能性を広げられる素敵な先生をお互いに目指しましょう。
教育		
2022 年 4 月～2023 年 3 月		
教育方針		学生が大学生活の中で、学ぶことの面白さを味わえるようサポートしていきたい。また、子どもたちが豊かな体験のできる環境づくりを行える保育者養成を目指したい。
授業	授業の工夫	＜音楽＞ 必要な知識を効率よく習得できるよう、独自に作成した資料にて講義を進めた。また、授業外には研究室や webclass のメッセージ機能にて質問・相談に応じた。複数あった質問・相談に関しては、その後の授業内でフォローするなど、学習内容の理解や意欲が保てるように努めた。複数担当で同時に授業を進める科目のため、学生の取組み状況や理解度等を担当教員同士で共有し、適切な支援が行えるように尽力した。さらに、学生と共に子どもの実際の表現活動を見学し、本科目の学習内容を現役保育者がどのように現場で用いているか考える機会を提供した。

教育（つづき）		
2022 年 4 月～2023 年 3 月（つづき）		
授業（つづき）	授業改善のための取組	<p>前年度の授業評価アンケートを見直し、特に到達目標の低かった項目について、授業内容の見直しや教授法の改善を図っている。また、学生の理解度を把握するため、單元ごとに習得状況の聞き取りを実施している。それに応じて、授業の始めに前回の復習を行ってから新しい学習に進むようにし、学習の定着率が高まるように努めている。さらに、学生へ最新の動向についての情報提供ができるように、学会や研究会への参加、保育・教育現場に出向くこと等を積極的に行っている。</p>
ゼミ	ゼミ活動 （卒業演習） （修了研究）	<p><卒業演習Ⅰ></p> <p>学生一人一人の興味関心のある分野において、まずは知識を深められるよう図書館やデータベース等を多く利用し、様々な研究に親しむ機会を設けた。多くの研究に触れることで、自らの研究テーマの目的や具体的な内容、方法を主体的に設定できるよう促した。また、学生同士で研究過程を共有する機会をつくり、互いに刺激し合うことで、より良い研究を目指せるように努めた。</p> <p><卒業演習Ⅱ></p> <p>個人またはグループで関心のある研究テーマを設定し、卒業レポートの作成に取り組んだ。全体・グループ・個別に分けて指導を行うことで、一人一人の進捗状況に応じた支援が行えるよう努めた。また、ゼミ内発表会ではゼミ生全員が PowerPoint によるプレゼンテーションを行った。</p> <p><修了研究></p> <p>担当なし。</p>
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<p><卒業レポートテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法における発達障がい児の心の変化－インタビュー調査をもとに－ ・子どもたちに歌い継ぎたい童謡・唱歌－アンケート調査を通して－ ・HSP と養育環境について－大学生への調査に基づいて－ ・音楽聴取と感情状態の関連について－短期大学生への調査から－ ・子どものリトミックについて－保育学生への調査から－ ・幼少期の音楽経験と性格の特徴について ・過保護が子どもに与える影響－異なる専攻の学生への比較調査から－ ・合奏における年齢別の課題 ・絵本が育む力と幼児期におすすめの絵本 ・幼児期の楽器経験の影響－保育学生へのアンケート調査をもとに－ ・幼少期の音楽活動が与える影響－音楽あそびの実践活動から－
課外活動	吹奏楽部顧問	

教育（つづき）		
2022 年 3 月 以前		
主な教育業績	＜2019 年度＞ 卒業演習で、ゼミ生が「子どもたちと楽しむ影絵と音楽」の実践を行い、県内 3 つの保育施設・障害児施設で発表した。この活動は、山梨学院「学生チャレンジ制度」に採択された。	
	研究	
2022 年 4 月～2023 年 3 月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（芸術発表） 「財団設立 20 周年記念 八王子市芸術文化会館ステップアップコンサート」（第 1 部演奏及び解説）（単独）	2022 年 6 月 11 日	公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団主催
（芸術発表） 「Spring Concert～春の調べに寄せて」（演奏及び解説）（共同）	2023 年 2 月 26 日	meets music 主催
2022 年 3 月 以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（芸術発表） 「八王子市芸術文化会館ロビーコンサート」（演奏及び解説）（単独）	2021 年 3 月 27 日	公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団主催
（芸術発表） 「山梨県立美術館ロビーコンサート」（演奏及び解説）（単独）	2021 年 3 月 14 日	山梨県立美術館主催
（学術論文） 「幼稚園生活における子どもの表現ーごっこ遊びにみられる音楽に関する表現に着目してー」（単著）	2020 年 3 月	山梨学院短期大学紀要 第 40 巻
（芸術発表） 「デュオリサイタル・ピアノとヴァイオリンの対話」（演奏及び解説）（共同）	2019 年 11 月 2 日	meets music 主催
（芸術発表） 「デュオリサイタル・ロマンス」（演奏及び解説）（共同）	2018 年 9 月 17 日（東京） 2018 年 10 月 21 日（山梨）	meets music 主催
（学術論文） 保育における音楽教育を通して育つ「聴く力」とはー乳幼児の聴力の発達に着目してー（単著）	2018 年 2 月	山梨学院短期大学紀要 第 38 巻

社会貢献
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等
2022 年 4 月～2023 年 3 月
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山梨県立笛吹高等学校 連携事業 講演（2023 年 3 月） ・ 第 14 回南アルプス市民音楽祭 児童合唱伴奏者（2022 年 10 月） ・ 第 8 回 日本音楽療法学会 関東支部都県別講習会（山梨）運営スタッフ（2022 年 10 月） ・ 権コンサート 企画及び演奏（2021 年 11 月・2022 年 9 月） ・ 山梨ミュージックアカデミー 運営スタッフ（2020 年～現在）
2022 年 3 月以前（主なもの）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三富町公民館主催 地域高齢者合唱団 講師（2013 年 9 月～2017 年 11 月・秋期～冬期） ・ 御坂町公民館主催 地域高齢者合唱団 講師（2013 年 9 月～2017 年 11 月・秋期） ・ 後屋敷公民館主催 歌の会 講師（2016～2018 年・年 1 回） ・ 山梨市岩手公民館主催 岩手地区の高齢者及び小学生に向けての演奏（2018 年・2019 年） ・ 南アルプス市内児童合唱団参加イベント伴奏 （アドブレーション・共立・NTT-F 共同事業体主催「ウラシマコタロウものがたり」等）（2021 年） ・ 第 41 回山の都ふれあいコンサート 運営補助（2021 年 11 月） ・ 山梨県立笛吹高等学校 連携事業 講演（2021 年 3 月・2022 年 3 月）
受賞 ※個人、所属団体
—